

平成 19 年度（第 51 回）
岩手県教育研究発表会発表資料

教 育 相 談

**中学校 1 年生における早期適応を図る
小・中学校の連携の在り方に関する研究**
「基礎的情報」の共有とその生かし方をとおして

研究協力校

紫波町立赤石小学校
紫波町立日詰小学校
紫波町立古館小学校
紫波町立紫波第一中学校

平成 20 年 1 月 9 日
岩手県立総合教育センター
教 育 相 談 室
佐 野 真 奈 美

目 次

研究目的	1
研究の方向性	1
研究の年次計画	1
本年度の研究の内容と方法	1
1 研究の目標	1
2 研究の内容と方法	1
3 研究協力校	2
昨年度の研究の概要	2
1 中学校1年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方に関する調査結果から	2
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の結果	2
2 中学校1年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方についての基本的な考え方	3
本年度研究の分析と考察	4
1 「基礎的情報」を生かした連携の推進試案の具体化	4
(1) 小・中学校間の共通理解	4
(2) 児童個票の作成	5
(3) 引継ぎと児童個票の活用	5
(4) 次期に向けての準備	5
2 「基礎的情報」を生かした連携の推進試案の実践	6
(1) 小・中学校間の共通理解	6
(2) 児童個票の作成	6
(3) 引継ぎと児童個票の活用	10
(4) 次期に向けての準備	15
3 中学校1年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方についての分析・考察	16
(1) 意識調査の結果から	16
(2) 中学校1年担任の聞き取り調査から	20
4 中学校1年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方についてのまとめ	21
(1) 小・中学校間の共通理解について	21
(2) 児童個票の作成について	21
(3) 引継ぎと児童個票の活用について	21
(4) 次期に向けての準備について	22
研究のまとめと今後の課題	22
1 研究のまとめ	22
(1) 実態調査について	22
(2) 各手立ての具体化と活用について	22
2 今後の課題	23
(1) 手立ての改善	23
(2) 引継ぎの在り方の工夫	23

おわりに

【引用文献】

【参考文献】

研究目的

学校における教育相談は、児童生徒が学校生活に適応し、他者とのかかわりの中で豊かな人間性や社会性を身に付け、自分の可能性を發揮できるように指導・援助することが大切である。

しかし、中学校1年生においては、複数の小学校から集まる生徒間の人間関係づくりや教科担任制による各担任との人間関係づくり、部活動の顧問や同級生・上級生との人間関係づくりが必要であったり、学習内容の進度や難易度もそれまでとは変わったりするなど、生活環境が大きく変化する。その中で、こうした環境の変化に適応しにくく、不登校や別室登校などの不適応状態を示す生徒も急増している。このことに対して、今までの「小中連絡会」では、指導要録抄本などの資料を用いて小学校の生活状況を伝え中学校側の生徒理解を促進するといった対策を講じてきた。しかし、児童や教師が最も不安に思う学習や人間関係への適応に関する情報提供が不十分であったり、引継ぎの時期や方法等の問題から引継ぎ内容が小学校担任の意図したように伝わらなかったりして、中学校での指導に十分生かされてはいなかったように思われる。

このような状況を改善していくためには、小・中学校間で引き継ぐ情報内容を検討し、児童一人一人に対する学習面や人間関係を中心とする具体的な情報や効果的な指導方法等が盛り込まれた児童個票の作成を行い、その引継ぎ方と中学校での生かし方を工夫することが必要であると考えます。

そこでこの研究は、引継ぎにおける「基礎的情報」の共有とその生かし方とおして、中学校1年生の早期適応を図る小・中学校の連携の在り方を明らかにし、学校における教育相談の充実に役立てようとするものである。

研究の方向性

中学校1年生における小・中学校間の連携において、引き継ぐ情報内容を整理・検討した「基礎的情報」を記した児童個票を作成し、小中連絡会において児童個票を中心とした段階的な引継ぎと継続的な指導・援助を行えば、早期適応を図ることができるであろう。

研究の年次計画

この研究は、平成18年度から平成19年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成18年度）

中学校1年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方に関する基本的な考え方の検討、基本構想の立案、実態調査とその分析・考察、小・中学校の連携において共有する「基礎的情報」の内容の整理・検討、「基礎的情報」を生かした連携の推進試案の作成と実践

第2年次（平成19年度）

中学校1年生における早期適応を図るため小・中学校の連携において共有する「基礎的情報」を生かした連携の推進試案の実践及びその結果の分析・考察、研究のまとめ

本年度の研究の内容と方法

1 研究の目標

研究協力校において、「基礎的情報」を生かした連携の推進試案を基に実践を行い、中学校1年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方を明らかにする。

2 研究の内容と方法

(1) 「基礎的情報」を生かした連携の推進試案の具体化（文献法）

- (2) 「基礎的情報」を生かした連携の推進試案に基づく実践（実践）
- (3) 中学校 1 年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方についての分析と考察（文献法，質問紙法）
- (4) 中学校 1 年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方についてのまとめ

3 研究協力校

紫波町立赤石小学校，紫波町立日詰小学校，紫波町立古館小学校，紫波町立紫波第一中学校

昨年度の研究の概要

1 中学校 1 年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方に関する調査結果から

(1) 調査の目的

平成 18 年 7 月，研究協力校の教職員を対象に，小学校から中学校へ継続的な指導が行われるように，小・中学校の教職員間での連携の在り方を明らかにするため，引継ぎを中心にした実態調査を行った。

(2) 調査の結果

調査から明らかになった内容を，次のようにまとめた。

ア 時期及び時間設定について

【現状】 「小中連絡会」の名称で毎年中学校卒業式後に引継ぎを設定し，決まった時間内で全員分を引き継いでいる。

3 月末は小・中学校共に年度末事務処理や新年度準備に追われ，業務が錯綜しているため，十分な引継ぎ時間をもつことが困難である。

中学校教職員からは，「時間のないところでの引継ぎに無理を感じている」という声があり，半数近くの教職員が「時間の不足」を指摘している。さらに，校内で情報交換する時間も取りにくいと感じている。

【考察】 年度末に，短時間で一度に多くの児童について引継ぎを行っている現状に対し小・中学校とも十分な引継ぎ時間がほしいと思っており，引継ぎ時期や効率的な引継ぎ方の工夫が必要である。

イ 資料及び引継ぎ内容について

【現状】 どの児童についても，指導要録抄本と学級編成用の資料（例：ピアノが弾ける，リーダー性がある等）等の資料によって引継ぎがなされている。

詳細については口頭で引き継いでいる。しかし中学校教職員からは，「情報量が少ない」，「小学校によって情報量が異なる」，「情報の重要度（ランク）がうまく伝わらない」，「小・中学校の教職員間に生徒の実態のとらえ方にずれが生じている」等の声があった。

【考察】 中学校教職員は 4 月当初，日常観察や日記等での情報収集に努めているが，十分な情報が集まらず対応に苦慮している状況がある。中学校での 4 月当初の指導・援助に役立つための情報内容や情報量の見直しが必要である。

ウ 引継ぎ方について

【現状】 3 月末の小中連絡会は，新年度中学校 1 年担任になるとは限らない教職員との引継ぎになる可能性がある。

小学校からは，「引継ぎ内容が中学校 1 年担任に確実に伝わっているのだろうか」

という不安の声があった。

小学校教職員は、児童の短所を話すと中学校教職員に先入観を与えることにつながるのではないかと考え、なるべく肯定的な表現を使って伝えていた傾向がある。そのため、中学校教職員に内容が的確に伝えられたとは言い難い。

【考察】引継ぎ内容が中学校1年生担任に確実に伝わるのが生徒の指導・援助に役立つ。そのための手順の工夫や引継ぎの際に用いる資料の改善が必要である。

2 中学校1年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方についての基本的な考え方

中学校1年生での不登校には「小学校の時に潜在的だった問題が中学校1年生になって顕在化したもの」と「中学校になって新たに不適応になったもの」の二つのパターンがある。前者に対しては小学校との「基礎的情報」の共有をと

した早期の取組が必要不可欠であり、後者に対しては中学校での学習や対人関係を中心とする不適応状況の予防的対応が求められる。

本研究のねらいは、小学校の時に潜在的だった問題が中学校1年生になって顕在化する前に、【表1】のような小学校6年担任が把握している児童の様子を中学校へ引き継ぎ、その情報が活かされることである。そのため小学校6年担任と学年会での検討によるスクリーニングを通して児童個票対象者を決定し、その児童の様子を「基礎的情報」として児童個票に盛り込み引き継ぐ。

「基礎的情報」とは小学校における出席等の状況、対人関係や学習状況の実態や特徴、実際行われた小学校での指導の内容や効果、児童自身の適応や問題解決の際に役立つ強いところ（

自助資源）、中学校担任等が児童にかかわる際に役立つ人的・物的資源（援助資源）や児童の苦戦状況、保護者の養育態度等の情報を指す。この「基礎的情報」を小中連絡会にて中学校へ引き継ぎ、小・中学校間の情報交換及び指導方針を確認し合うことを「基礎的情報」の共有と考える。

このように小・中学校間で児童個票対象者についての「基礎的情報」を共有することによって、中学校では小学校からの指導の連続性を大切にし、入学当初からの指導に役立てることができる。それによって児童個票対象者に対して、1学期を目処とした早期適応を図ることができる。と考える。

また、小・中学校間で共有する「基礎的情報」に基づいて、個のニーズに合った指導の方針を立てたり、それに基づいて指導を行ったり、その振り返りをしたりする一連の過程を「基礎的情報」を生かすとする。中学校での指導・援助の際に、児童個票の「基礎的情報」が積極的に、繰り返し生かされることが大切である。

以上のことから、「基礎的情報」を盛り込んだ児童個票を使用することによって次のようなことが期待できる。

ア 各小学校から中学校へ引き継がれる、情報の内容及びその情報量の統一が図られる。

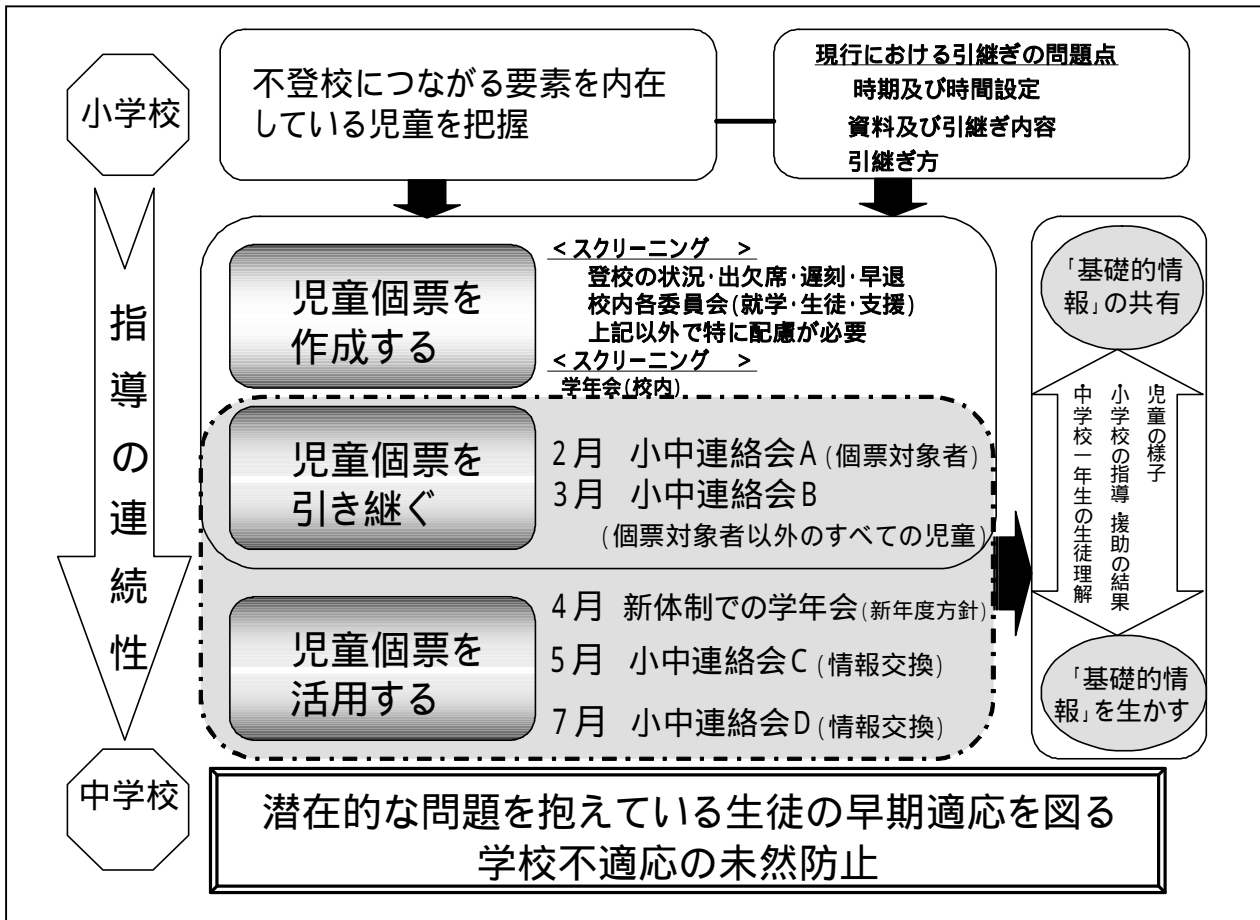
イ 引継ぎ内容についての絞りを絞って、限られた時間内でも理解を深めることができる。

【表1】学校不適応につながる潜在的な問題として
小学校担任が把握できる児童の様子

観点	例
出席状況	・遅刻や早退が多い・別室登校や登校しつりの経験がある
授業等への参加状況	・体育等の見学多い・保健室へ頻回行く・学力が低い ・提出物を出さない・行事に参加しにくい(できない)・忘れ物が多い
対人関係の特徴	・自分から友達と輪に入っていくけない ・いやと断ることができない・周囲とトラブルが多い ・自分から相談することができない・嘘をつくことが多い ・いつも人に合わせている・その身に合った会話(応答)ができない
性格行動の特徴	・自分でなかなか物事を決めることができない ・一度決めたことの訂正がきかない・こだわりがある ・予想外のことに対処が困難である・落ち着きがない ・感情表現をあまりしない・内向的でおとなしい ・極度に真面目であったり、理屈が高すぎる ・気にしすぎる場所がある・母子分離不安がある
家族の状況	・家族との不和・家族内の不和・家庭の教育力が弱い ・家庭に事情がある

ウ 中学校で早期適応を図る指導の資料になる。

これまで述べてきた基本的な考え方を基に、中学校1年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方に関する基本構想図を【図1】のように作成した。



【図1】中学校1年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方に関する基本構想図

本年度研究の分析と考察

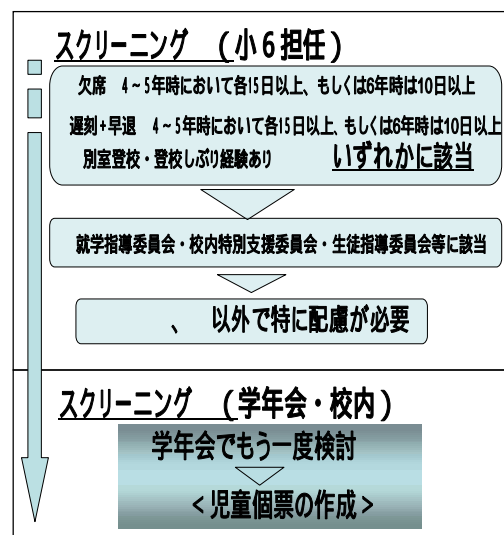
1 「基礎的情報」を生かした連携の推進試案の具体化

(1) 小・中学校間の共通理解について

小・中学校間の共通理解のもと中学校区の引継ぎを実践するため、以下のような打合わせ会を設定する。

- ・ 校長会議，教頭会議（適宜）：引継ぎに関する決定事項の申し合わせ，進捗状況の確認をする。
- ・ 各校校内研修会（適宜）：各校の代表者を中心にして，引継ぎの計画，方法，児童個票の記述の仕方等について研修する。
- ・ 代表者会議（定例）：中学校区の各校代表者は毎月一度，引継ぎの詳細について話し合う。

（p15【表7】）



【図2】スクリーニングの流れ

(2) 児童個票の作成

冬休み中に、スクリーニング（担任と学年会）をして児童個票対象者分の「基礎的情報」をまとめた児童個票を作成する。

(3) 引継ぎと児童個票（p 8【図 4】）の活用

児童個票を使用して、小・中学校間で引継ぎを行うとともに、中学校は引継いだ児童個票を生かして児童個票対象者の指導・援助を図る。

(4) 次期に向けての準備

今回の引継ぎの反省と、翌年度の引継ぎに向けての準備を行う。

小・中学校間での引継ぎにおいて「基礎的情報」を生かした連携を図るために、これらの観点を盛り込んだ推進試案を作成した。（【表 2】）

【表 2】中学校 1 年生における早期適応を図る小・中学校の連携についての推進試案

* 網掛けは、「基礎的情報」の共有と生かし方にかかわる部分

観 点	推 進 計 画	留 意 点
共通理解	校長会議，教頭会議 各校代表者会議 校内研修会 ・学区内の小・中学校間の情報交換，連絡調整，引継ぎの詳細について話し合う	・7月の校長会議の際，中学校区の各小・中学校は代表者を決める。 ・中学校区の代表者会議は2学期の早い時期に開催するのが望ましい。
児童個票の作成	(1) スクリーニング（12月～1月） ・不適応につながる要素を内在している児童を把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;"><スクリーニング>（担任）</p> <p style="text-align: center;">出欠席 校内各委員会 配慮が必要な児童</p> <p style="text-align: center;"><スクリーニング>（学年）</p> <p style="text-align: center;">学年会 校長・教頭</p> </div> ↓ (2) 児童個票の記入（1月末までに「基礎的情報」をまとめる）	・冬休み中に児童個票の作成をするために，スクリーニング は早めに行う。 ・児童個票の記入の仕方については校内研修会等であらかじめ確認しておく。 ・中学校は提出された児童個票に目を通してから2月の小中連絡会 A に臨む。
引継ぎと児童個票の活用	2月 小中連絡会 A ↓ ・児童個票対象者の引継ぎを行う 3月 小中連絡会 B ↓ ・児童個票対象者以外の引継ぎを中心に行う 4月 新体制での学年会 ↓ ・引継ぎの際，小学校から得た意見や情報をもとに，児童個票対象者に対する中学校での指導方針をたてる 5月 小中連絡会 C ↓ ・小・中学校間の情報共有と指導方針の確認や修正をする 夏休み 小中連絡会 D ↓ ・小・中学校間の情報共有と指導方針の確認や修正をする	・小中連絡会 A・C・D では「基礎的情報」を共有する。その際，児童個票対象者の資源についても話題にし，指導・援助に役立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;"><小中連絡会 A～D の準備物></p> <p style="text-align: center;">児童個票</p> <p style="text-align: center;">中学校用記録メモ</p> <p style="text-align: center;">児童個票カード（従来の学級編成時使用のもの）</p> </div>
次期に向けての準備	引継ぎの反省 児童個票等の修正 ・各校代表者は，これまでの引継ぎについて検討し，「基礎的情報」の内容や中学校区の実態に合ったより効率的な引継ぎ方を話し合う。	・あらかじめ，各校内で引継ぎの反省しておく。

2 「基礎的情報」を生かした連携の推進試案の実践

(1) 小・中学校間の共通理解

小・中学校間の打ち合わせについては【表3】のように行った。

ア 適宜行うもの

7月の校長会議の折、時間をとってもらい、連携のねらいや進め方について適宜話し合い、中学校区としての共通理解を図った。校長会議を早目に開催することで、引継ぎの準備を段階的にすることができた。教頭会議ではこれから行われる引継ぎの最終確認をした。

【表3】打ち合わせの実際

	会議の名称・時期	メンバー	内容
随時	校長会議（7月） 教頭会議（12月）	中学校区の校長，教頭	連携のねらいや進め方について話し合い，中学校区の共通理解を図った。
定例	各校校内研修会	全職員	校内研究，研修会，職員会議の場で，職員が引継ぎについて共通理解を図った。

イ 毎月行うもの

校長会議後各校から1名を代表者として選出し、選出された代表者は毎月定例会を行い、次の点について話し合った。代表者には、小学校は6年生担任の代表1名、中学校は教育相談担当者がついた。（p15【表7】）

引継ぎ方の確認

校内の全職員へ報告

引継ぎの実施に向けた各校の取組状況の報告と確認

各小・中学校代表者の研修

代表者間での共通理解と意思疎通

(2) 児童個票の作成

児童個票は次の要領で作成した。

ア 作成要領の提示

中学校区全教職員が引継ぎについて共通理解を図るため、「児童個票の作成要領」を示した。

（【別冊資料p1】）

内容は、児童個票のねらい（「基礎的情報」の共有，指導・援助の連続性，生徒の早期適応），スクリーニングの方法（スクリーニング ・ ），留意点（指導の参考のみに使用すること，情報の管理等）を明記した。

イ スクリーニングの実施（【図3】【別冊資料p2】）

児童個票を作成するにあたり、冬休み前に以下の＜スクリーニング ・ ＞を行った。＜スクリーニング ・ ＞は小学校6年担任が行い、＜スクリーニング ・ ＞は6学年会で行った。

スクリーニングの要領

スクリーニングの流れ

小6担任

学年長(学年会)

校長

児童個票作成

< スクリーニング > ~ に該当する児童について担任が実施

欠席・遅刻・早退・別室登校の児童

欠席	4～5年時各学年において15日以上、もしくは6年時は12月までで10日以上
遅刻+早退	4～5年時各学年において15日以上、もしくは6年時は12月までで10日以上
別室登校・登校しぶり	4～6年時各学年において1度でも判断されたことがある

4～6年時各学年において、就学指導委員会・校内特別支援委員会・生徒指導委員会等に該当した児童

上記・以外で、担任が「特に配慮を要する」と判断した児童

観 点	項 目
A 出欠席や授業等への参加状況	ア遅刻や早退が多い イ保健室へ頻回行く ウ体育等の見学が多い エ提出物を出さない オ忘れ物が多い カ基礎学力が未定着である キ行事に参加しない(できない) クその他
B 対人関係での特徴	ア自分から友達の輪に入っていけない イ「いや」と断ることができない ウ周囲とトラブルが多い エ自分から相談することができない オその場に合った会話(応答)ができない カその他
C 性格・行動の特徴	ア自分でなかなか物事を決めることができない イこだわりがある ウ一度決めたことの訂正がきかない エ感情表現をあまりしない オ予想外のことに対処が困難である カ気にしすぎるところがある キ極度に真面目だったり、理想が高すぎる ケ落ち着きがない ク口数が少ない コ母子分離不安である サその他
D 家族との関係	ア家族との不和 イ家族内の不和 ウ家庭の教育力が弱い エ家庭に事情がある オその他

< スクリーニング > に該当する児童を校内(学年会)で検討

*担任の判断だけでなく、学年会で多面的・総合的に判断する

【図3】スクリーニング

(ア) スクリーニング (担任)

小学校6年担任がスクリーニングを行い、次のいずれかの段階に該当する児童を児童個票対象者とした。

欠席の状況に着目し、4～5年時においては各学年15日以上欠席の児童を対象とした。これは、ほぼ1ヶ月に1日程度の割合で休む場合を想定した。遅刻・早退も同様とした。6年時は児童個票作成の12月までを対象期間とするため、10日とした。別室登校や登校しぶりについては、担任が一度でも該当すると判断した場合に対象とすることとした。

就学指導委員会、校内特別支援委員会、生徒指導委員会等で配慮を要するとしてとりあげられた児童を対象とした。

上記・以外で、特に配慮を要すると担任が判断した児童を対象とした。その観点は、学習面の問題、対人面の問題、社会性(性格・行動の特徴)の問題が不適應の主な要因になるという先行研究から、この3点を取りあげた。加えて、本研究の昨年度の実態調査において必要とされた、家庭面(家族との関係)の情報を合わせて【図3】の中の示したA～Dの4項目を考え

た。各項目の観点例においては、学校不適応につながる潜在的な問題として小学校担任が把握できる児童の様子をあげ、スクリーニングの目安とした。

(1) スクリーニング（学年会）

スクリーニングで児童個票対象者とされた児童について、学年会で検討した。これは、学年で話し合うことにより、校内である程度統一された基準でチェックできることと、各担任がそれぞれの基準(主観)でスクリーニングしてしまったのではないかという妥当性に対する不安を解消することが目的である。

児童個票を冬休みに記入するため2学期中にスクリーニングを行いたいが、小学校は冬休みのこの時期、卒業アルバムの編集もあり日程的に厳しいため、学年会を少し遅らせ冬休み中に行うなどの工夫をした。

ウ 児童個票作成（【別冊資料p p. 3 - 4】）

引継ぎでは【図4】の児童個票を用いた。児童個票に盛り込まれた「基礎的情報」に関する説明は(ア)～(キ)のとおりである。

㊚ 児童個票 1 (欠席等)・2 (就学指導等)・3 (配慮) H , , 現在記入*整理番号()

ふりがな 氏名		A				小学校	記入者(どちらかに) 担任・その他()
遅刻 / 早退 (別室登校・登校しぶり)	1年生 / ()	2年生 / ()	3年生 / ()	B	4年生 / ()	5年生 / ()	6年生 / ()
欠席日数と理由	日	日	日	日	日	日	日
学習・活動(顕著なものに+・) 関心・意欲・態度 ()積極性 ()持続性 ()偏り ()他 ____ 定着や得意・不得意等の様子 ()国 ()算 ()社 ()理 ()体 ()芸術 () 行事 ()特別活動 ()他 ____ 取り組み方 ()授業 ()家庭学習 ()発言 ()提出物 ()学校生活における基本的な生活習慣 ()他 ____			対応		結果		
生活・健康(顕著なものに+・) 心身 ()頭痛 ()腹痛 ()身体不調 ()医療 ()チェック ()他 ____ ()問題なし 生活状況 ()食事 ()睡眠 ()遊び方 ()自立 ()行動 () ()規範意識 ()他 ____			対応		結果		
社会性(顕著なものに+・) 対人関係 ()特定の友人 ()グループ ()学級 ()教師 ()性格 () ()かわり方 ()社交性 ()意思表示 ()感情の受け止め方 ()コミュニケーションのとり方 ()他 ____ 家庭状況 (いない場合は二重斜線、顕著なものに+・) ()父 ()母 ()兄弟姉妹 ()祖父 ()祖母 ()親密さ(会話等) ()養育態度 ()関係機関連携 ()他 ____			対応		結果		
こうなつてほしいと願うこと			D		E		
			+		4月		
			0		夏休み		
			-		冬休み		
					2月		
備考			F		中学校在学中の兄弟姉妹名		

【図4】児童個票（表面）

- (ア) A欄：スクリーニング ~ のどの段階でスクリーニングされたのかが分かるように、児童個票の上の部分に をつける。複数に該当する児童は、該当する全ての番号に をつける。
- (イ) B欄：出欠席の状況や登校しぶり，別室登校については，1学年から記入する。
- (ウ) C欄：「学習・活動」「生活・健康」「社会性」のそれぞれの特徴が顕著なものに+または-の記号を入れ，加えてそれらに対する小学校での対応（指導・援助）とその結果を示す。児童の-面（忘れ物が多い，などの苦戦状況）だけでなく，+面（絵を描くことが得意，などの資源）も記入することで，中学校教職員が生徒にかかわる際のきっかけとしたり，指導・援助に生かせる部分の情報も伝えられることが特徴である。

学習・活動

関心・意欲・態度

授業へ向かう姿勢を示す。「偏り」は学習や行事等によって極度の好き・嫌いがあるかを示す。

定着や得意・不得意等の様子

学習の定着の様子や顕著な得意・不得意教科を示す。

取組方

学校や家庭における様子や取組方の顕著な特徴を示す。「学校生活における基本的な生活習慣」とは，忘れ物・整理整頓などの生活の仕方についての顕著な様子を示す。

生活・健康

心身

心と体についての顕著な不調状況を示す。「医療」のチェックは，医師の指示を受けている場合に記入する。

生活状況

発達や生活全体にかかわる顕著な状態を示す。「遊び方」とは一人でのいるのを好むか，他者と遊べるか，遊び方に特徴があるかを示し，「行動」はその児童特有の行動特徴（こだわり，病的なもの等）を示す。

社会性

対人関係

児童の対人関係のもち方や家庭での顕著な特徴を示す。学校場面で，他者とどのようなかかわり方をするのか，誰との関係に問題状況を示したり，良好な関係をもっているのかを示す。さらに児童の性格やコミュニケーションの特徴なども示す。

家庭状況

家族構成や家族関係の状態（良好・不良）を示す。「親密さ」は，児童個票対象者と家族とのかかわりの親密さを示し，「関連機関連携」は，教育センター等の専門機関との連携があるかどうかを示す。

- (イ) 「社会性」欄（「対人関係」「家庭環境」）は，学校生活への適応のための重要な情報のため必ず記述する。
- (オ) D欄：「こうなってほしいと願うこと」には，児童個票対象者の苦戦状況について，このように変化してほしいという表現形を用い，担任の願いとして記述する。
- (カ) E欄：推移は，児童個票対象者の小学校6年生時の状況変化を曲線で示す。それによって状況変化の様子が見え，どのような状態で中学校に入学してくるのかが分かる。この

曲線は担任の主観的判断に基づき、4月をゼロと位置づけて示す。

(キ) F欄：備考には、様々な自助資源や援助資源、中学校在学中の兄弟名等、指導・援助の参考になるとと思われることを自由に書く欄として使用した。

(3) 引継ぎと児童個票の活用

ア 引継ぎ

小学校でのスクリーニングを経て作成された児童個票を基に引継ぎを行うが、実際の引継ぎ場面では口頭での説明も多くなり中学校側のメモが必要となる。そこで、「中学校用記録メモ」を作成し使用した。(【図5】【図6】【別冊資料pp.5-8】)中学校用記録メモの表面は、2月の小中連絡会A(2月の引継ぎ)で使用できるよう児童個票に対応した配列になっている。余白には小学校6年担任が口頭で話した内容の要点を記録した。加えて具体的なエピソードも記入することで、中学校1年担任がより具体的な生徒像をイメージしながら引継ぎ内容を把握できるよう配慮した。

一方、中学校用記録メモの裏面には、小中連絡会A(2月の引継ぎ)後に行われた中学校説明会での様子や、児童個票対象者の入学後の指導方針と経過、5月・7月(夏休み中)の小中連絡会C・D等の内容が記入できる構成になっており、児童個票対象者の情報を蓄積できるようにした。

(ア) 中学校用記録メモ(表面)

A欄：児童個票の項目と同様の配列になっている。中学校教職員は児童個票に記された内容の説明を受けながら余白部分に書きためる。

B欄：生徒像をよりイメージできるように、具体的なエピソードを記入する。教師や友人との関係づくりや不適應の予防に有効な資源についても話題にし、入学当初からそのような情報に基づいた意図的な指導ができるようにした。

引継ぎ 中学校用記録メモ 1(欠席等)・2(就学指導等)・3(配慮) H , , 現在記入 *整理番号()

ふりがな 氏名		男・女		小学校		記入者	
遅刻 / 早退	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
(別室登校・登校しぶり) 欠席日数	()日	()日	()日	()日	()日	()日	()日
学習・活動(顕著なものに+) 関心・意欲・態度 ()積極性()持続性()偏り()他 _____ 定着度や得意・不得意等の様子 ()国()算()社()理()体()芸術()行事()特別活動()他 _____ 取り組み方 ()授業()家庭学習()発言()学校生活における基本的な生活習慣()他 _____				具体的なエピソードなど _____ _____ _____			
生活・健康(顕著なものに+) 心身 ()頭痛()腹痛()身体不調()チック()医療()他 _____ ()問題なし 生活状況 ()食事()睡眠()遊び方()自立()行動()規範意識()他 _____				具体的なエピソードなど _____ _____ _____			
社会性(顕著なものに+) 対人関係 ()特定の友人()グループ()学級()教師()性格()行動()社交性 ()意思表示()コミュニケーションのとり方()感情の受け止め方()他 _____ 家庭状況(いない場合は二重線、顕著なものに+) ()父()母()兄弟姉妹()祖父()祖母()親密さ(会話等)()養育態度 ()関係機関連携()他 _____				具体的なエピソードなど _____ _____ _____			
こうなっていてほしいと願うこと		+ 0 -		4月		夏休み 冬休み 2月	
							備考

【図5】中学校用記録メモ(表面)

(1) 中学校用記録メモ（裏面）

C 欄：小学校への説明会で児童個票対象者の様子を観察し，記録した。

D 欄：小中連絡会 A（2月の引継ぎ）で引き継いだ点を中心に中学校が観察し，生徒が入学する前に指導方針を決めそれを記入した。中学校では4月当初に1学年会において，その指導方針を確認した。

E 欄：入学後，指導方針に基づいて対応したときの生徒の様子を記録した。

F 欄：5月と7月（夏休み）に行った小中連絡会 C・D で出された小学校側の情報や意見，アドバイス等を記録した。

引継ぎ 中学校用記録メモ

1（欠席等）・2（就学指導等）・3（配慮）

H19, , 記入 *整理番号()

氏名		男・女	小学校	記入者	
小学校説明会での様子	今後の方針		入学後の様子		
	C	学習・活動	(, ,)	(, ,)	(, ,)
		D	生活・健康	(, ,)	(, ,)
	D	社会性(対人・家庭)	(, ,)	(, ,)	(, ,)
5月		7月	備考		
小中連絡会	F				

【図6】中学校用記録メモ（裏面）

イ 児童個票の活用

(ア) 児童個票活用の流れ

児童個票を活用して，【表4】のような段階的な引継ぎ及び児童個票対象者の観察及び指導・援助を行った。

【表4】児童個票を使用した引継ぎの経過

* 網掛け部分は新しく設定した内容

日時	名称・メンバー	ねらい	工夫したこと
2月13日 16:15~17:45	小中連絡会 A 中相談部（相談担当・中各学年主任・ 養護教諭）、小6担任	児童個票対象 者の引継ぎ	
2月15日 18:00~19:00	新入生保護者説明会 中学校教頭・相談担当・養護教諭		保護者への教育相談の時間を 設けた
2月28日 13:15~17:30	小学生への新入生説明会 中2生徒会・2学年の教職員・相談部		児童個票対象者を観察する機 会とした
3月20日	職員会議 中学校全職員		児童個票一覧表で確認した
3月22日 9:00~11:40	新入生一日入学 中全職員		児童個票対象者への配慮・観察 をした 新入生にアンケート調査をした
3月22日 13:00~15:20	小中連絡会 B 相談部+中新1年担任・中特学担任、 小6担任・小養護教諭		新1年担任を配置した 児童個票対象者以外の児童に 時間配分を多くした
3月23日 13:00~	学級編成 中3学年・中新1年担任		児童個票一覧表を使用した
4月3日 15:00~17:20	相談部会 中相談部（小中連絡会Aのメンバー）	4月当初の指 導方針の決定	
4月4日 15:00~17:00	1学年会 中新1学年		児童個票や児童個票一覧表を基 にして学年で共通理解を図った
4月末日 家庭訪問日の午後	記録の整理 中新1年の学年主任、相談担当		指導方針の見直しをした
5月9日 13:30~16:55	小中連絡会 C 前年度小6担任・中新1学年		中学校より4月当初の方針に 基づく指導の経過を伝え、それ に対する意見や感想を小学校 よりもらった
8月2日 13:00~15:30	小中連絡会 D 前年度小6担任・中新1学年	指導経過の確 認・見直し	

(1) 小中連絡会での活用

児童個票対象者についての「基礎的情報」を、丁寧且つ確実に共有することをねらいとして、引継ぎを2月と3月の2回に分けた。2月の小中連絡会（引継ぎ）は、児童個票を使用し児童個票対象者分のみを行い、3月の小中連絡会（引継ぎ）は、2月以降の児童個票対象者の様子に加えて児童個票対象者以外の全ての児童を、例年通りの資料と方法を用いて行った。

さらに、5月の小中連絡会（情報交換）は、小学校の旧6年担任が中学校1年担任に直接会い、両方で児童個票の内容に沿って進めた。この話し合い方の特徴は、中学校教職員が「4月当初の方針に基づいた指導の経過」を話し、それに対して小学校旧6年担任より意見や感想をもらうことにより児童個票対象者の更なる情報収集に努め、今後の指導・援助の参考にした。その際、児童個票対象者について優先的に話題にすることで、児童個票対象者の時間確保を図った。なお、小中連絡会A（2月の引継ぎ）と小中連絡会B（3月の引継ぎ）の工夫点と反省点は【表5】のとおりである。

【表5】小中連絡会A（2月の引継ぎ）と小中連絡会B（3月の引継ぎ）の工夫点と反省点

	工夫点		反省点
児童個票対象者の引継ぎ（小中連絡会A・2月）	時程の もち方	中学校では既存の「分掌部会」の時間を充当した。 引継ぎにかかる時間は、一人当たり平均10分を目安にした。	小中連絡会の設定の際、新たに時間を割り当てるのではなく、既存の会を見直したことは効率的だった。
	聞き取り方	中学校の相談部（各学年主任・養護教諭・相談担当）が小学校教職員から引継ぎを受けた。中学校教職員が一人で聞きながら書き留める作業は、話が途切れたり、聞き逃したり、書き落としたりすることがあるため、小・中学校とも二人一組のペアになって行った。	養護教諭も引継ぎのメンバーに入れ、次年度に備えたことがよかった。 中学校では、話者と記録者の役割分担ができ効果的に聞き取ることができた。 中学校教職員は未だ出会ったことのない生徒についての話を聞くことになる。その際、「あのパターンだな」などと自分の経験則に当てはめて速断しないよう留意する必要がある
	4月当初の 指導方針の 決定の仕方	中学校入学からどのような方針で指導をしたらよいか、児童個票対象者をよく知っている小学校担任から意見をもらった。 中学校は小学校担任の意見を貴重な情報ととらえ、引継ぎを受けた中学校教職員で検討し、4月当初の指導方針として決定した上で新担任に引き継いだ。	小学校は、4月当初の指導方針の提案を積極的にするのがよい。 2月の小中連絡会時に実施した方が効率的であった。
児童個票対象者以外の引継ぎ（小中連絡会B・3月）	小中連絡会の 進め方	2月に引継ぎを終えた児童個票対象者に関しても話題にした。	基本的には児童個票対象者以外に絞った方がよかった。
	学級編成用 個票カード 活用の仕方	児童個票対象者分のカードも用意し、児童個票に記載されていない項目（リーダー性、ピアノを弾く等）を記入し学級編成に使用した。	児童個票対象者が分かるようにカードに印をつけるとよい。
	新中学校1 年担任への 伝え方	今まで通りの資料と方法で行ったが、さらに小学校教職員から聞き取った内容を、資料の余白に記述することを確認した。 メンバーに新中学校1年担任を配置した。	可能な限り、新中1担任をメンバーに入れた方がよい。

中学校各担当の役割

中学校においては、教務主任や相談担当等の教職員が以下の役割を遂行しながら引継ぎをリードした。

< 教務主任 >

- ・中学校区の引継ぎ日程を設定し、各小学校への案内文書の作成・配布
- ・相談担当と連携しつつ、共通理解を図るため校内での引継ぎの場の設定
- ・小中連絡会での全体司会

<相談担当>

- ・代表者会議への参加：中学校区の引継ぎについての詳細決定，小学校との意見交換等
- ・校内の会議（運営会議，部会，職員会議，学年会）：引継ぎについて詳細（ねらい，方法等）を提案
- ・小中連絡会：各校代表との調整，会のまとめ役，資料の準備，校内職員への説明等
- ・「児童個票対象者一覧表」の作成：児童個票対象者一覧表の作成，全職員（または関係者）が，短時間で共通理解を図ることができた。（【表6】【別冊資料pp.9-10】）
- ・保護者説明会での教育相談：事前に全保護者に希望を募り，申し出があった保護者に対する教育相談の実施
- ・小学校説明会への参加：生徒会担当とともに小学校説明会に参加し，児童個票対象者の観察
- ・新入生一日入学：当日に向けての教職員の共通理解。個票対象者一覧表の作成，使用
- ・学級編成：個票対象者一覧表の配布
- ・相談部会：小学校から提案された「4月当初の指導方針」を検討し中学校の意見の加筆，小中連絡会の担当割当て
- ・学年会への参加：これまでの引継ぎの内容と「4月当初の指導方針」を学年で共通理解を図るための援助，引継ぎの一連のサポート
- ・新入生にアンケートを実施：新入生一日入学の際，指導・援助の資源とするためのアンケートの実施。（【図7】【別冊資料p11】）
- ・指導方針の確認：学年長，担任とともに，4月当初の指導方針が妥当かどうかの確認（4月は一週間毎）

【表6】個票対象者一覧表（記入例）

中学校 教育相談担当

番号	出身	氏名	男	スクリーニング			こうなつてほしいと願うこと （個票より）	資源 （個票・聞き取りより）	本人の意欲 （アンケートより）	4月当初の指導方針	備考 （学区・保護者懇話会等）
				1	2	3					
1	小	A子				落ち着いて学習ができる	特定の友達と話す	吹奏楽でがんばりたい。	声かけ，視線を合わせる。		
2		B男				前向きに行動する	図工の時間は粘り強い	野球をがんばりたい	無理をしていないか声かけをする	落ち着きに欠けた	
3		C子				母親からの自立，生活習慣の改善	特手の友達と話す	忘れ物をしない	メモを確認する	母は学習面で心配していた	
4		D子				前向きな気持ちで過ごす	家庭学習を進んでできる	友達をふやしたい	毎日名前を呼んで声をかける		

小学校卒業後、「中学生になったらこうなりたいなあ」と思うことを教えてください。

1 学習について

2 部活動について

3 友達について

次のことについて、心配していることがあれば教えてください。(ない時はなしと記入)

1 学習について

2 部活動について

3 友達について

中学校の先生に期待すること

あなたの思う、中学校のイメージを教えてください。

・良いイメージ

・悪いイメージ

【図7】

新生に実施したアンケート

< 養護教諭 >

- ・ 2月と3月の小中連絡会において、相談部として引継ぎを担当
- ・ 小学校説明会での児童個票対象者の観察
- ・ 小・中学校の養護教諭同士での引継ぎを担当

各校代表者

各校代表者は代表者会議に出席し、【表7】各校代表者会議の内容

中学校区の引継ぎについての詳細を決めた。加えて、代表者会議で決定されたことを校内職員へ伝えた。代表者会議について、【表7】に示した。

代表者会議に、町教育委員会指導主事や中学校教頭が適宜出席して一緒に討議した。

各校代表者は自校のこととしてだけでなく「中学校区の引継ぎ」という広い視野で話を進めた。

引継ぎ以外での児童個票の使用

保護者説明会での教育相談：事前に児童個票対象者を含めた新生の全保護者対象に希望を募り、申し出のあった保護者に対して中学校の教頭・相談担当・養護教諭が教育相談を実施した。

小学校への説明会：相談部の教職員（1名）が参加し、生徒会担当とともに各小学校を訪問して児童個票対象者の観察をした。

新生一日入学：前日、相談担当が全職員に対して、児童個票対象者についての配慮事項や対応について「児童個票対象者一覧表」を用いて説明した。当日、職員は打合せ通り生徒に接することができた。

(4) 次期に向けての準備

5月と7月(夏休み中)の小中連絡会後は、中学校生活において児童個票対象者を含めた中学校1年生に不適応状態が生じた場合、小・中学校間で随時連絡を取り合うこととした。次期に向けての準備は、引継ぎ完了後、引継ぎ関係者の意見を取りまとめ次の引継ぎに生かすこととした。

回	内 容
1	・顔合わせ ・引継ぎ全体計画 ・意見交換
2	・児童個票の理解 ・意見交換
3	・児童個票の項目検討 ・意見交換
4	・スクリーニングの項目検討 ・意見交換
5	・引継ぎの各校共通理解について ・意見交換
6	・2月の引継ぎの具体について ・意見交換
7	・一連の引継ぎの反省 ・今後の確認

3 中学校1年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方についての分析と考察

(1) 意識調査の結果から

児童個票を用いた一連の引継ぎについて意識調査を行った。その概要を【表8】に示した。

【表8】意識調査の概要

		調査 A	調査 B
調査期間		H19, 3, 24 ~ H19, 3, 28	H19, 8, 31 ~ H19, 9, 5
対象	小学校教職員(人)	13	5
	中学校教職員(人)	5	9
	合計(人)	18	14
調査方法		研究担当者が調査用紙を作成し, 研究対象中学校区内の引継ぎにかかわった教職員に実施	研究担当者が調査用紙を作成し, 研究対象中学校区内の引継ぎにかかわった教職員に実施(異動者を除く)
調査の内容		<ul style="list-style-type: none"> 資料及び引継ぎ項目内容 2月の引継ぎ(小中連絡会 A)についての時期及び時間設定 2月の引継ぎ(小中連絡会 A)の感想 児童個票引継ぎ後の指導(小学校) 	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校間の共通理解 4月当初の方針 小中連絡会 C・D 中学校1年生の早期適応 「児童個票」と「中学校用記録メモ」を使用しての指導・援助(中学校)

ア 調査 A の調査結果

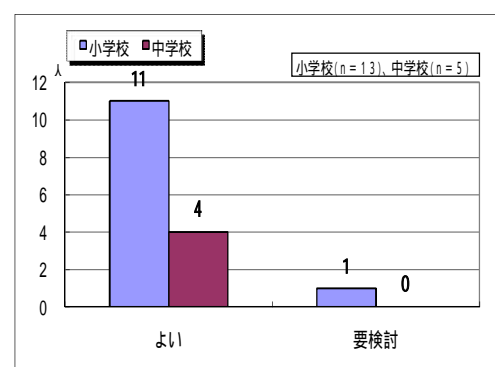
(ア) 資料及び引継ぎ内容(項目)について

- ・スクリーニングの欠席基準日数 妥当だと思う 【小学校(11人), 中学校(4人)】
- ・出欠席や授業等への参加状況 妥当だと思う 【小学校(13人), 中学校(3人)】
- ・対人関係の特徴 妥当だと思う 【小学校(8人), 中学校(3人)】
- ・性格・行動の特徴 妥当だと思う 【小学校(11人), 中学校(3人)】
- ・家族との関係 検討が必要だと思う 【小学校(6人), 中学校(1人)】
- ・児童個票の情報量 妥当だと思う 【小学校(13人), 中学校(2人)】

「家族との関係」の項目が要検討であったが, ほかは「妥当」という結果だった。記述量においても「負担量ではない」「小6担任の仕事増のイメージはない」「口頭でも伝えることができるのがよかった」「中学校へ伝わるのであれば書く意欲が出る」という意見だった。

(イ) 児童個票対象者を2月に引き継いだこと

【図8】は児童個票対象者を2月に引き継いだことをどう思うかの調査結果を示したものである。小学校ではほぼ全教職員が, 中学校においても全教職員が「よい」と答えた。その理由としては, 小学校は「じっくり話すことができた」「一日入学の前に説明ができてよかった」とし, 中学校は「小学校への説明会で観察することが出来てよかった」「早目の対応が可能になるので大変良い」という意見だった。



【図8】児童個票対象者を2月に引き継いだこと

(ウ) 2月の引継ぎにおける感想

【表9】2月の引継ぎにおける感想（一部抜粋）

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ・今までよりも詳しく話すことができたため、丁寧に引き継いでもらったという印象を受け安心できた。 ・一人に対しての引継ぎ時間を十分にとって行うことができた。 ・児童の良さについても時間をかけて話すことができた。 ・配慮の観点が見られていたことで、複数の学校がある程度基準をそろえて引き継げた。 ・何度も中学校に足を運ぶことで小・中学校の接点が見えた。中学校へ行きやすくなった感じがする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなことを配慮していけばよいのか等、今まで以上に引き継ぐ方（中学校教職員）の意識が変わった。 ・小学校の先生と話したことで小・中学校が連携して生徒理解・生徒指導をすることはとても大切。小・中の意識の違いを自覚することや、共通認識をもつことは、今後の生徒指導観にも影響すると思う。 ・次年度の指導等の体制の吟味に役立った。 ・会場を小学校で行うのも一つの方法だと思う。

【表9】は今回の引継ぎにおける感想についての調査結果を示したものである。小学校は今まで、配慮を要する児童について短時間で全員分の話をしてきたが、今回の引継ぎでは一人一人の配慮すべき点だけでなく、児童の良さについても十分話すことができ丁寧さや安心感が得られた。一方、中学校においては、一人一人のどの点に配慮していけばよいのかを知ることができ、より焦点化した指導・援助を心がけようという意識面が変化していることが見て取れる。必要な時間が確保された中で児童個票を使用した引継ぎは、もうすぐ生徒を迎える中学校にとって大変有効だったと言える。

(I) 引継ぎ後の各校の意識

【表10】引継ぎ後の各校教職員の意識（一部抜粋）

(小学校) 児童の卒業まで意識したこと	(中学校) 生徒が入学するまで意識したこと
<ul style="list-style-type: none"> ・「こうなってほしいと願うこと」に記入した点を意識して個別に励ました。 ・進学に向けて、補えるところを意図的に取り組んだ。 ・配慮すべき事項や課題について再度見直し、指導、改善できるように心がけた。 ・引き継いだ内容が適切であったか、確認することを心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への説明会では、対象児童を観察し印象を知ることができた。 ・(事前の情報のおかげで)新入生一日入学の際、個々の児童への接し方、話し方に気を配ることができた。 ・資料を大切に保管することが大事である。 ・できるだけ早く校内の情報交換をし、新中学校1年担任に正確に伝えることが大事だと思う。 ・あくまで生徒理解の一部だと捉えること、偏見を持ちすぎないことが大事である。

【表10】は引継ぎ後の各校の意識調査結果を示したものである。小学校教職員は、引継ぎ後さらに児童の苦戦の状況(児童個票内「こうなってほしいと願うこと」)に注目して指導を心がけていたことが分かった。一方、中学校教職員は、2月上旬の児童個票引継ぎ後から、2月末の小学校への説明会、3月末の中学校一日入学、中学校内の引継ぎと進む中で、児童個票対象者を観察して理解をしたり、中学校一日入学で個々への接し方に引継ぎの情報を取り入れたりするなどして、児童個票を活用する機会は多かった。

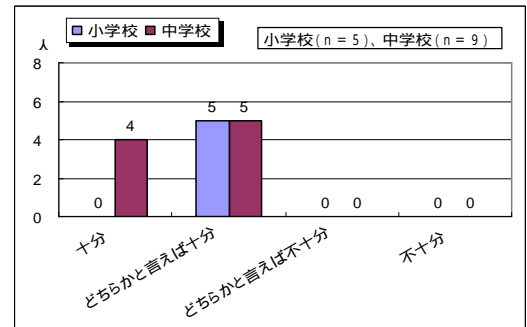
イ 調査 B の調査結果

【図 9】は、小学校教職員は中学校教職員と（中学校教職員は小学校教職員と）共通理解を図ることができたかの調査結果を示したものである。小・中学校とも全教職員が共通理解が図られたと感じている。小学校全教職員が「どちらかと言えばできた」を選んでいる理由の中には、「3月の引継ぎでは、2月に引き継いだ児童個票によく目を通してから会に臨んでほしい」という意見があった。一方、中学校は共通理解が図られた理由として「小学校教職員と会って顔を見て話げできたこと」をあげている。これらから、資料を仲介として実際に顔を合せての会話が両者に有効だったことが分かった。

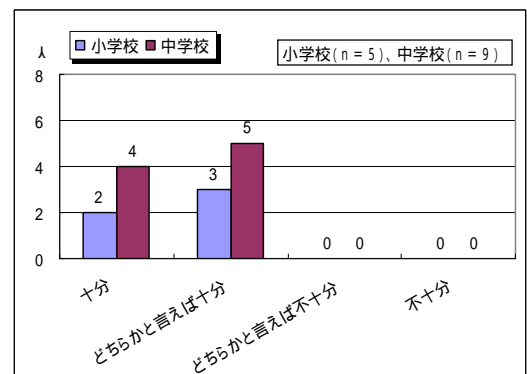
【図 10】は、児童個票があることにより、話し合いを深めることができたと思うかの調査結果を示したものである。小・中学校とも全職員が話し合いを深めることができたと答えている。両者から「児童への対応と結果を小・中学校が同時に書き込む方法がよかった」「児童個票は会議の原案のようなものでポイントを絞って話し合うことができた」「確認しておきたい内容について忘れることなく話題にできた」等の声があげられた。児童個票を使用することによって小・中学校が共通の認識で話し合えたことが分かった。

【図 11】は、5月の小中連絡会で児童個票対象者を先に話し合ったことは有効だったかの調査結果を示したものである。小・中学校とも、ほぼ有効だったとしており、限られた時間の中では児童個票対象者を先に話題にするという工夫は有効である。一方、「時間的な保障があればどの生徒についても話題にするので分けなくてもよい」という意見が多かった。

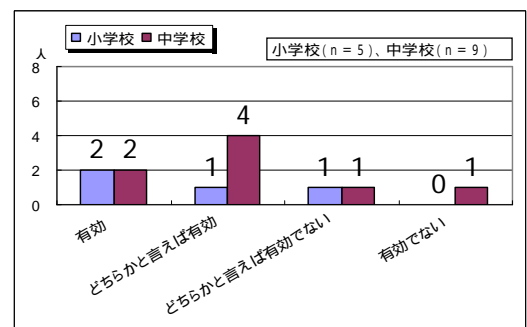
【図 12】は、夏休み中の小中連絡会で、児童個票対象者の生徒に絞って話し合ったことは有効だったかの調査結果を示したものである。小学校は「どちらかと言えば有効」も合わせて全職員が有効と考えていた。中学校は6人の教職員が有効でなかったと答えている。小学校は「十分な時間の中で卒業後の様子を知ることができてよかった」と感じ、中学校は「この時期は個票対象者以外にも気になる生徒がいるのでそれを中心に話したい」「報告会にしかならなかった」「小・中学校間での指導の課題について話し合いたい」という意見だった。これは、児童個票対象者への対応がうまくいっているため、中学校教職員の児童個票対象者以外の生徒の情報を得ることにニーズが変化したと考えられる。



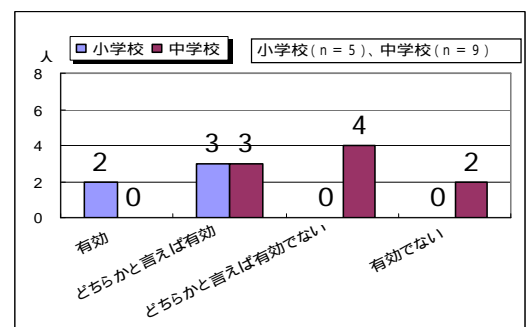
【図 9】共通理解を図ることができたか



【図 10】話し合いを深めることができたか

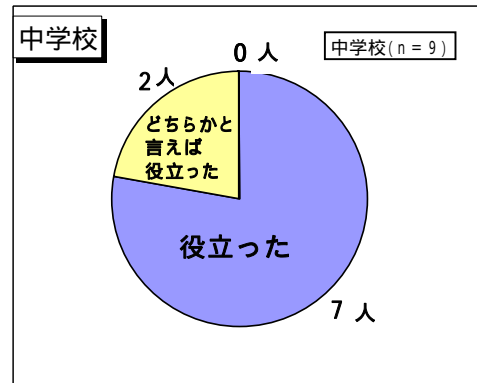


【図 11】5月の小中連絡会で児童個票対象者を先に話し合うことは有効か



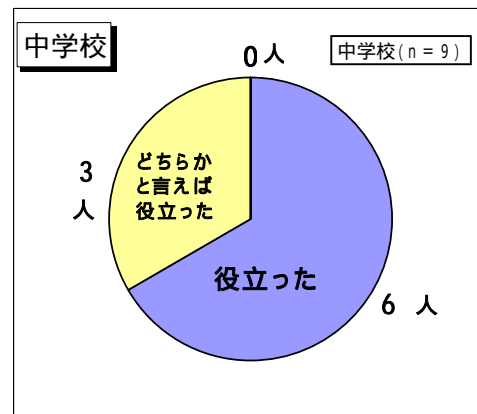
【図 12】夏休み中に小中連絡会で児童個票対象者に絞って話し合ったことは有効か

【図 13】は、児童個票の内容が児童個票対象者の指導・援助に役立ったかの調査結果を示したものである。中学校全教職員が役立ったと感じている。「入学時から意識してスムーズに指導に当たることができた」「指導者の心構えができた」「今までどのような点で指導されてきたかが分かり、それを理解した上で指導ができた」「予備知識がなければ無用に生徒に負担をかける事態が想像された」という声もあることから、中学校教職員にとって児童個票が基礎的情報として役立ったこと、小・中学校間での指導の連続性が得られたことが分かった。



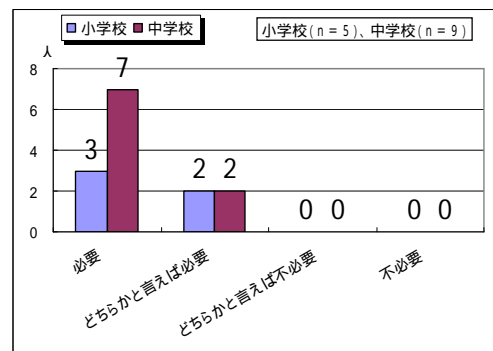
【図 13】児童個票が指導・援助に役立ったか

【図 14】は、中学校用記録メモ（表面）は児童個票対象者の理解や指導・援助に役立ったかの調査結果を示したものである。中学校全教職員が役立ったと感じている。理由としては、「児童個票の内容をより詳しくすることができた」「具体的なエピソードでよりイメージができた」「小学校の指導法を参考にすることができた」「小学校の担任の思いを感じることができた」「具体的な対策を考えることができた」があげられ、有効だったと言える。そのほか、中学校用記録メモ（裏面）に児童個票対象者の経過を記録できるようにしたことについては、「変化を振り返ることができた」「担任以外が経過を知りたいときに有効だった」としながらも、「記入の時間がなく記入を忘れた」「別のノートに独自にメモした」「大量のメモ等でこの用紙に書けなかった」とする教職員もいた。



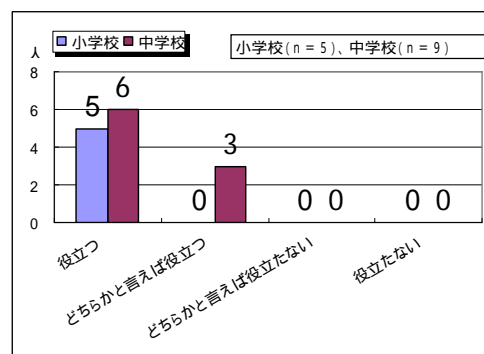
【図 14】中学校用記録メモが指導・援助に役立ったか

【図 15】は4月当初の指導方針を立てる際、小学校の見方や意見を示してもらうことは必要かの結果を示したものである。中学校は、小学校教職員が思う以上にアドバイスを「必要」としていることが分かる。自由記述には「小学校の見方や意見により、指導する際の要点が分かった」「早くから個のどの部分を配慮すれば良いかが分かりやすかった」とあり、小学校教職員は中学校教職員に小学校での指導法をもっと積極的に話した方がよいと思われる。さらに、4月当初の指導方針を受けて中学校では実際どのような言葉がけや配慮をしたかを聞いたところ、「他の生徒より多めに声がけをした」「特別扱いをしないように、注目して観察をした」「同じ小学校の生徒に何気なく協力を求めた」と、注意深く観察しつつ、さりげない援助を行ったことが分かった。



【図 15】4月当初の指導方針を決める際、小学校の見方や意見を示すことは必要か

【図 16】は、一連の引継ぎ方が児童個票対象者にとって早期適応や早期適応に役立つと思うかの調査結果を示したものである。小学校は全教職員が「役立つ」と答え、中学校も「役立つ」「どちらかと言えば役立つ」を合わせると全教職員が「役立つ」と答えた。小学校の主な理由は「中学校での指導につながっていると感じることができたから」【図 13】と同様、指導の連続性を評価している。



【図 16】この度の一連の引継ぎ方は中1の早期適応に役立つと思うか

一方、中学校では「入学して、まず気になるのがやはり児童個票対象者だった」「児童個票対象者が出すいろいろな問題に早くから小・中学校で考えることができ、以前より対応ができた」ということがあげられた。中学校は、小学校から早目に情報を受けたことにより、生徒の入学前から受け入れ体制を整え見通し（方針）をもち、心の準備をしていた。このことから小学校の意見が中学校の指導・援助に大きく役立つことが分かった。

中学校は、小学校から早目に情報を受けたことにより、生徒の入学前から受け入れ体制を整え見通し（方針）をもち、心の準備をしていた。このことから小学校の意見が中学校の指導・援助に大きく役立つことが分かった。

(2) 中学校1年生担任の聞き取り調査から

ア 児童個票対象者Aの事例

Aは中学校入学後、一斉指導場面で教師の指示に沿った行動がすぐにはとれなかった。児童個票では「学習・活動の積極性」「社会性の意思表示、コミュニケーションのとり方」に(-)のチェックがあった。さらに「備考欄」には、「家庭だけでは子どもへの支援が困難のため家庭への支援がより重要、家庭からの協力が得られにくい」とあったので、担任は以下の方針で対応をした。

< 4月当初の指導方針 >

困っていることがないか常に声をかける。

- ・担任、副担任、学年主任、生徒指導担当は日常的に声をかける。
- ・教科担任は授業で観察と声かけをする。

担任、教科担任は家庭学習で個別指導をする。

就学指導の観点でも観察をしていく。

< 指導・援助 >

本人が困っている状況を担任が見つけたとき、声をかけた。

担任から指示を出したあと本人のそばへ行きもう一度指示をしたり、グループ活動のときは担任がつき、周囲の生徒へ理解と協力を求めたりして橋渡し役となった。

< 結果 >

学級の生徒からの協力も得られ、一日も欠席することなく登校している。中学校での早期適応が図られた。

イ 1学期間に小学校と連携したBの事例

Bは児童個票対象者ではなかったが、1学期が終わる頃から授業に集中できず各教科担任に注意を受けることが多くなった。学年会で相談した結果、小学校時の指導法を教えてもらうこととなり、小学校に連絡をして児童個票を作成してもらった。

< 児童個票を受け取った感想 >

- ・小学校時の指導，生徒の背景，資源等を知ると，指導者のその生徒を見る視野が広がり指導のしやすさが違った。（例えば，小学校から同様の苦戦状況があれば小学校から指導のこつを教えてもらい，その方法を中学校でも続けることができる。）
- ・保護者へのコミュニケーションの仕方に大いに参考になった。
- ・2学期の方針を決める手がかりになった。

4 中学校1年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方についてのまとめ
今回の実践及び分析，考察をとおして，明らかになった点は次のとおりである。

(1) 小・中学校間の共通理解について

中学校区校長会議後，各校から代表を選出し代表者会議を設けたことは有効であった。このことにより，各学校からの情報を出し合いまとめたり，各学校に伝達したりすることで，各校代表者の意志の疎通を図りながら進めることができた。このとき町教育委員会が地域の実情を考慮しながら，各学校に対してリーダーシップをとり働きかけることで一層連携が図りやすくなった。

(2) 児童個票の作成について

ア スクリーニング ・ の実施

スクリーニングの項目についてはほぼ妥当であった。スクリーニングを（担任）と（学年会）で行うことにより，学校不適応につながる潜在的な問題をかかえていると思われる児童についての的確に把握でき，さらには学年会で多面的・総合的に判断することができた。

イ 児童個票作成について

実態調査から児童個票内の項目内容が妥当であったという結果が得られ，これらを「基礎的情報」として引き継ぐことが効果的であることが明らかになった。児童個票の分量についても小学校教職員にとって負担な量ではないという結果が得られ，適切であったことが明らかになった。

(3) 引継ぎと児童個票の活用について

ア 小学校教職員の積極的な意見

小学校教職員が児童個票の内容に沿って，児童理解や指導方針等について積極的に意見やアドバイスを述べることで中学校側からも求められており，それが中学校教職員による児童個票対象者への早期対応へとつながり，児童個票対象者の早期適応を図ることに生かされていることが明らかになった。

イ 中学校用記録メモの活用

中学校用記録メモを活用したことにより，小学校6年担任の伝えたい意図が中学校1年担任に十分に理解されることにつながり，小学校からの指導・援助の連続性が得られることが明らかになった。さらに中学校では，4月に立てた指導方針が入学後の児童個票対象者のニーズに合っているかといった指導方針の見直しをする際，「中学校用記録メモ」への記録の蓄積が必要であることが明らかになった。

ウ 小中連絡会

小中連絡会では次のように児童個票対象者とそれ以外の児童を分けて引き継いだり，その後の指導方針の見直しを行うことが有効であることが分かった。

(ア) 小中連絡会 A（2月の引継ぎ）・B（3月の引継ぎ）

児童個票対象者を2月の時期に引き継いだことにより，一人一人の引継ぎに十分な時間の確保ができたため，小学校教職員は丁寧さや安心感を得られたという結果だった。加えて中

学校が早目に情報を受け取ることにより、生徒の入学前から受け入れ体制を整え見通し（方針）をもち、ゆとりをもって心の準備ができたことが明らかになった。

さらに3月の小中連絡会 B では、2月に行われた児童個票対象者以外の児童を中心に引継ぎを進めることにより、児童個票対象者以外の「配慮を要する児童」について話し合う時間をとることが可能になることが分かった。

なお小中連絡会 A で児童個票を引き継いだ後、小学校では児童個票対象者の卒業までに指導すべきことを意識する一方、中学校においても、児童個票対象者について全教職員に事前に周知することにより、3月末の中学校一日入学時に適切な対応をしようとした。このことから、小中連絡会 A により小・中学校教職員が指導内容や指導法の振り返りや吟味を行い、意識の変化があったことが明らかになった。

(イ) 小中連絡会 C（5月）

児童個票を使用することにより、小・中学校間で同じ観点で指導・援助の在り方について話し合うことができた。加えて児童個票対象者を優先的に話し合うことで、児童個票対象者の情報交換の時間を確保するとともに、効率的に話し合いを行えることが明らかになった。

(ウ) 小中連絡会 D（7月）

児童個票で中学校にとって必要な「基礎的情報」が伝わったことにより、児童個票対象者への早期対応を意図的に行うことができた。また、児童個票対象者の早期適応が図られたことにより、1学期を終える頃には中学校教職員の生徒理解に関するニーズが他の配慮を要する児童の生徒へと変化することが明らかになった。中学校教職員は児童個票対象者以外にも目を向けることができたと言える。

この時期、新たに児童個票の作成が必要な生徒については、小学校に依頼して再度児童個票作成をしてもらい「基礎的情報」の共有を図ることが有効であることが明らかになった。

(4) 次期に向けての準備について

中学校区の各校では小中連絡会 D（夏休み中の情報交換）後、「基礎的情報」の内容、小中連絡会の在り方等、一連の引継ぎについての反省をし、各校代表者をとおして次期の引継ぎに反映する。その後は、次期の準備のため中学校がリードをとり日程調整を図るとよいことが分かった。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この2年間の研究は、1年次に実態調査及び基本構想図、「基礎的情報」の内容の整理・検討、推進試案の作成を行い、2年次に具体的手だてに基づく実践を行った。本研究の成果は、次のとおりである。

(1) 実態調査について

実態調査から、研究協力校の中学校区における引継ぎにかかわる現状と課題（十分な引継ぎ時間の確保、中学校の4月当初の指導・援助に役立つための情報内容や情報量の見直し、引継ぎ内容が中学校1年担任に確実に伝えられるような手順の工夫や資料の改善）を明らかにすることができた。この調査結果から、中学校では対人関係や学習の様子とその指導・援助方法、家庭状況などの情報を必要としていることが明確となり、「基礎的情報」として項目内容に取り入れ児童個票の作成をすることができた。

(2) 各手だての具体化と活用について

ア 各手だての具体化について

中学校 1 年担任に引継ぎ内容が伝わるよりよい方法として、児童個票、中学校用記録メモ、児童個票対象者一覧表を作成することができた。これらの資料を有効活用することにより、引継ぎ内容を中学校 1 年担任に確実に伝えることができた。

イ 手だてに基づく実践について

今回行われた引継ぎでは、小中連絡会を 2 月と 3 月に分け引継ぎ時間の確保をすることで、小学校から中学校へ丁寧に「基礎的情報」の提供ができた。このことによって、中学校では小学校からの指導の連続性を大切にすることができ、潜在的な問題を抱えている生徒の早期適応及び学校不適応の未然防止をする上で効果的であった。さらに児童個票を繰り返し見て指導・援助の方針を確認すること、学年・全職員の共通理解により担任を支えることが成果を上げる上でも大切であることが分かった。

2 今後の課題

本研究の課題は、二点である。

(1) 手だての改善

今回の取組を基に、「基礎的情報」の内容の検討とその共有及び生かし方の手だてをさらに工夫していく必要がある。

(2) 引継ぎの在り方の工夫

ア 多くの中学校区では引継ぎについては、見直す機会が得られないまま前年度までの方法を踏襲している状況が見られる。今回の研究を基盤としながら、各中学校区の実態に合った引継ぎの在り方を工夫する必要がある。

イ 小・中学校の教職員は、児童・生徒観の違い、指導観の違い、学校文化の違い、学習・生活環境の違い等、様々な場面で違いを感じていることが明らかになった。この違いを理解するための交流の場が必要である。

おわりに

この研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力校の先生方に心からお礼を申し上げます。

【引用文献】

国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2003),『中1不登校生徒調査(中間報告)』-不登校の未然防止に取り組むために-』, pp. 4 - 6

【参考文献】

岩手県教育委員会学校教育室(2006),『平成17年度調査』

小野昌彦(2006),『不登校ゼロの達成』, 明治図書

学校教育相談研究所(2005),『月刊学校教育相談(3・4月号)』, ほんの森出版

「教育アンケート調査年鑑」編集委員会(2005),『教育アンケート調査年鑑』,(株)創育社

京都市教育委員会,京都市総合教育センター(2005),『小・中連携教育の在り方』,平成16年度研究紀要

國分康孝,久子(2004),『構成的グループエンカウンター事典』,図書文化

国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2003),『中1不登校生徒調査(中間報告)』-不登校の未然防止に取り組むために-』

国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2005),『不登校の未然防止に取り組むために-中1不登校生徒調査から分かったこと-(パンフレット)』

小林正幸,小野昌彦(2005),『教師のための不登校サポートマニュアル』,明治図書

小林正幸(2004),『事例に学ぶ不登校の子への援助の実際』,金子書房

静岡県総合教育センター(2004),『「中1ギャップ」を解消するための「中学校1年生支援」の在り方』

児童心理 2005年12月号臨時増刊(2005),『不登校の子へのかかわり方』

品川区教育委員会(2005),『品川区小中一貫教育要領』,講談社

品川区教育委員会(2006),『小中一貫教育全国サミット2006』(研究紀要),小中一貫教育全国連絡講義会

新潟県教育委員会(2005),『中1ギャップ解消調査研究事業報告書』

堀洋道,吉田富士雄(2001),『心理測定尺度集』,サイエンス社

文部科学省(2003),『不登校への対応の在り方について(通知)』

文部科学省(2006),『児童生徒の問題行動等生徒指導情報の諸問題に関する調査』

山口豊一,石隈利紀(2005)『学校心理学が変える新しい生徒指導』,学事出版

「中学校 1 年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方に関する研究」に係るアンケートのお願い
岩手県立総合教育センター 教育相談室

当室では、平成 18 年度～19 年度にかけて、児童生徒が小学校から中学校へ進学する際、継続的な指導を行うために小・中学校の教職員間でどのように連携をしていけばよいのかを研究しております。

つきましては、引継ぎに関する以下のアンケートにお答えいただきたくお願い申し上げます。

1 学校名・職名 _____ 小学校 ・ _____

2 「資料及び引継ぎ内容」についてお聞きします。

(1) スクリーニングで分類し、中学校に情報提供した個票の枚数をご記入ください。

1 に該当	2 に該当	3 に該当	複数に該当	合計
枚	枚	枚	枚	枚

(2) スクリーニングの欠席基準日数(4～5 年時各学年において 15 日以上、もしくは 6 年時は 12 月までで 10 日以上)はどうでしたか。

ア 適当 ・ イ 日数設定の改善が必要

(3) 「特に配慮を要する」と判断するための個票裏面の項目についてどう思いましたか。

A 「出欠席や授業等への参加状況」の項目

ア 十分 イ どちらかと言えば十分 ウ どちらかと言えば不十分 エ 不十分

<理由>

B 「対人関係での特徴」の項目

ア 十分 イ どちらかと言えば十分 ウ どちらかと言えば不十分 エ 不十分

<理由>

C 「性格・行動の特徴」の項目

ア 十分 イ どちらかと言えば十分 ウ どちらかと言えば不十分 エ 不十分よい

<理由>

D 「家族との関係」の項目

ア 十分 イ どちらかと言えば十分 ウ どちらかと言えば不十分 エ 不十分

<理由>

ほかに、つけ足したい項目はありますか。

(4) 児童個票の記入量(情報量)はどうでしたか。

ア 十分 イ どちらかと言えば十分 ウ どちらかと言えば不十分 エ 不十分
<理由>

(5) 「こうなってほしいと願うこと」を位置付けたことについてどう感じましたか。

(6) 「こうなってほしいと願うこと」についての曲線の必要性はどうでしたか。

3 「時期及び時間設定」についてお聞きします。

(1) 個票対象者を2月に引き継いだことについてどう思いましたか。

(2) 個票対象者の引継ぎは、どのくらいの時間が十分だと思いますか。

(_____ 分ぐらい)

4 個票を引き継いだ以降、どういう点を大事にされましたか？

5 中学校との今までの引継ぎと今回の引継ぎとでは、意識や印象の違いがありましたか。具体的にお書きください。

6 その他(お気づきの点がありましたらご記入ください)

ご協力ありがとうございました

「中学校 1 年生における早期適応を図る小・中学校の連携の在り方に関する研究」に係るアンケートのお願い
岩手県立総合教育センター 教育相談室

当室では、平成 18 年度～19 年度にかけて、児童生徒が小学校から中学校へ進学する際、継続的な指導を行うために小・中学校の教職員間でどのように連携をしていけばよいのかを研究しております。

つきましては、引継ぎに関する以下のアンケートにお答えいただきたくお願い申し上げます。

1 学校名・職名 _____ 小学校 ・ _____

2 「資料及び引継ぎ内容」についてお聞きします。

(1) スクリーニングで分類し、中学校に情報提供した個票の枚数をご記入ください。

1 に該当	2 に該当	3 に該当	複数に該当	合計
枚	枚	枚	枚	枚

(2) スクリーニングの欠席基準日数(4～5年時各学年において15日以上、もしくは6年時は12月までで10日以上)はどうでしたか。

ア 適当 ・ イ 日数設定の改善が必要

(3) 「特に配慮を要する」と判断するための個票裏面の項目についてどう思いましたか。

A 「出欠席や授業等への参加状況」の項目

ア 十分 イ どちらかと言えば十分 ウ どちらかと言えば不十分 エ 不十分

<理由>

B 「対人関係での特徴」の項目

ア 十分 イ どちらかと言えば十分 ウ どちらかと言えば不十分 エ 不十分

<理由>

C 「性格・行動の特徴」の項目

ア 十分 イ どちらかと言えば十分 ウ どちらかと言えば不十分 エ 不十分よい

<理由>

D 「家族との関係」の項目

ア 十分 イ どちらかと言えば十分 ウ どちらかと言えば不十分 エ 不十分

<理由>

ほかに、つけ足したい項目はありますか。

(4) 児童個票の記入量(情報量)はどうか。

ア 十分 イ どちらかと言えば十分 ウ どちらかと言えば不十分 エ 不十分
<理由>

(5) 「こうなってほしいと願うこと」を位置付けたことについてどう感じましたか。

(6) 「こうなってほしいと願うこと」についての曲線の必要性はどうか。

3 「時期及び時間設定」についてお聞きします。

(1) 個票対象者を2月に引き継いだことについてどう思いましたか。

(2) 個票対象者の引継ぎは、どのくらいの時間が十分だと思いますか。

(_____ 分ぐらい)

4 個票を引き継いだ以降、どういう点を大事にされましたか？

5 小学校との今までの引継ぎと今回の引継ぎとでは、意識や印象の違いがありましたか。具体的にお書きください。

6 その他(お気づきの点がありましたらご記入ください)

ご協力ありがとうございました